



発表会の振り付け真っ最中です！

今年もまた発表会の振り付けがはじまりました。「今年もまた発表会を開催できる」という幸せをしみじみとかみしめるのは、16年前の震災以来のことです。

ゴールデンウィークに入る前あたりから、今度のお話はなんだとせつつかれていました。それほど楽しみにしてくれているのはとても嬉しいことです。熱心に振り付けを覚え、大汗をかきながら踊ってくれる子どもたちはきらきらと輝いてまぶしいくらいです。今年の発表会は「おひさまにむかって12のダンス」(台本 藤田佳代)と「山のカレンダー」(菊本千永)です。

おひさまにむかって 12のダンス

おひさまお元気ですか。

地球は元気ですと書きたいのですが世界を見渡しますと大洪水 大嵐 大竜巻など 大という字が付く災害が起こっています。

地球は病気かもしれません。地球が病気をするとおひさまもきっと病気になりますよね。そこでおひさまにいつまでも元気でいて下さるよう に 神戸から12のダンスを捧げます。どうぞお受け取り下さい。 藤田佳代

- | | | | |
|----|--------------|---------------------------|-------------|
| 1 | ヒバリのダンス | おひさま はやくかおをだして | 本部 金曜日 |
| 2 | せせらぎのダンス | おひさま もうすこしこっちをむいて | 若江岩田・山の街・西山 |
| 3 | スズカケのダンス | あの白い雲をたべたいな | 本部 土曜日 |
| 4 | カエルのダンス | おひさま すこしかくれているよ 雨がほしいんだ | 大久保 コーブ兵庫 |
| 5 | ササユリのダンス | 3.11への祈りをお届けします | 本部研究科 土曜日 |
| 6 | ハクモクレンのダンス | ハナビラが白い鳥になって | 有野・山本・西大和 |
| 7 | ミツバチのダンス | 土って魔法使いなんだ | 本部 火・水曜日 |
| 8 | 波のダンス | 昨日も今日も明日も海はきれいです | 学が丘・エコール |
| 9 | ケンのダンス | わたしたちはここに居ていいのでしょうか | 本部バレエ体操 |
| 10 | ナガバモジイチゴのダンス | いただきます ごちそうさま | 加古川・西神南 |
| 11 | 木の根のダンス | こちらは闇に向かいます。フッフッフッ アッハッハッ | 本部研究科 金・日 |
| 12 | トビのダンス | トビは空にまるをかく わたしは地球にまるをかく | リズムクラス 全員 |

山のカレンダー

この山を何日もかけて登っていくと、別の山が見えてくる。その山をまた何日もかけて奥へ入っていくと美しい泉があって、そのほとりにはやまんばが住んでいる。誰が名付けたか、名をヒワという。ヒワの毎日は忙しい。やまんばは1000年を生きるらしい。そんなやまんばヒワの今年の一年のはなしをしよう。

山の春 春がすみ晴れわたると春の女神、佐保姫がおとずれる。

- ・春がすみたなびき百千鳥鳴くころ ヒワは口笛をふいている
 - ・風歌い野の花笑うころ ヒワは風で髪を櫛とく。
 - ・花らんまん咲きほこるころ ヒワは花びらを追いかける
- 山の夏 山が雨を吸い込むと夏の女神、筒姫がおとずれる。
- ・新緑深く色づくころ ヒワは筒姫に出すお茶をつくっている
 - ・八咫神(雷)雲より下るころ ヒワは木霊と一緒に枝とびをする。
 - ・ご先祖様が泉を通過して山に戻るころ ヒワは忙しくごちそうをあつめている
- 山の秋 野分の過ぎた風の道を通って秋の女神、竜田姫がおとずれる。
- ・野分吹き山晴れわたるころ ヒワは露でお酒をつくる。
 - ・ヒガンバナ秋風に呼びかけるころ ヒワは頭飾りをつくっている。
 - ・山が錦の衣を羽織るころ ヒワは金の帯を締める

山の冬 木枯らしが山の葉を落とすと冬の女神、宇津多姫がおとずれる。

- ・風一直線に走るころ ヒワは木の葉とかけっこをする。
- ・山が綿帽子をかぶるころ ヒワは子守歌を歌いはじめる。
- ・水凍り山眠るころ ヒワはまた来年とつぶやく

冬つきる 春はあした

- ・龍 氷を解くころ ヒワは宇津多姫とともに龍に乗ってご先祖様のところへ行く。

ヒワが去った後には、セツブンソウの花が残されて、花に抱かれた小さな小さなやまんばが眠っていたそうな・・・。

今後の予定

- | | | | | |
|---------|------------------|----------|--------------|----------------|
| 8月 9日 | ダンス夢洞楽 | 北沢タウンホール | 人形 | アノコノシアワセイノッテル |
| 8月 14日 | ピッコロフェスティバル | ピッコロシアター | ほらね | 竹は天をめざす ササユリの頃 |
| 8月 28日 | ダンスブーケ | 本部スタジオ | | |
| 9月 19日 | 筑紫が丘自治会敬老のつどい | つくしホール | | |
| 10月 30日 | 洋舞フェスティバル | ふれあいの祭典 | 兵庫県立芸術文化センター | |
| 12月 3日 | 寺井美津子モダンダンスリサイタル | 朝日ホール | | |

お知らせ

寺井美津子先生は今年の4月より、神戸親和女子大学発達教育学部ジュニアスポーツ教育学科の非常勤講師とダンス部のコーチに就任しました。こちらのレッスンは、今まで通りさせていただきます。

終わりました ありがとうございます

神戸全国洋舞コンクール 2011年4月23日 神戸文化中ホール モダンダンスシニア 作舞・出演 向井華奈子 kemuri

創作実験劇場 2011年2月26日(土) ルナホール

出演 寺井美津子 金沢景子 菊本千永 かじのり子 向井華奈子 灰谷留理子 石井麻子 藤木絵里香 山田麻以 萩原陽子 松浦早希
重友理帆 平岡愛理 田中彩加 田中文菜 稲益夢子 渡辺草平 雲井綾音 三木涼音 末吉花林 菊原麻理奈 渡辺菜子
出品 藤田佳代 寺井美津子 金沢景子 菊本千永 かじのり子 向井華奈子 灰谷留理子 萩原陽子 重友理帆 平岡愛理

藤田佳代舞踊研究所モダンダンス公演 創作実験劇場 が行われ、藤田佳代らによる九作品が発表された。私の知っている限りでは1996年からではないかと思うが 創作実験劇場 にはすでに長い歴史がある。神戸でひっそりと行われてきた小さな催しは、藤田の舞踊を一つのスタイルとして定着させる過程だった。最近のコンテンポラリーダンスや新しいスタイルのバレエなどは、動きを目いっぱい増量して、舞台空間の密度を異常に上げることで、忙しい今の社会の風景を写し取るとうとする。しかし藤田の舞踊はむやみに動かない。ひとつひとつの動きを大事にして、動きと動きの間にある静止の時間にも意味のあることを観客に示す。今回の 創作実験劇場 では、藤田の舞踊の特質を門下の舞踊家たちがそれぞれに咀嚼して自分の作品を創っていることを、今まで以上に感じた。林英哲の音楽で群舞の『おどるあほう』を創った金沢景子のゆったりとした空間の流れは、打楽器の追い込むようなリズムに負けない存在感を持っていた。萩原陽子の『冬の夕闇』菊本千永の『人形 アノコノシアワセインッテル』、灰谷留理子の『en』、向井華奈子『kemuri』、かじのり子の『遊びをせんとや生まれけむ』の自作自演のソロ五本には、それぞれに自身の世界があり、しっかりと地に足をつけて生きる者のみを持つ安心感があった。寺井美津子の歌とピアノによる群舞『はないちもんめなんて大きらい』には、スケールの大きな舞台の流れがあり、若手三人の共作による『流れ』は、若さのはなやぎを感じさせた。そして藤田の四章からなる群舞作品『今日のこの空ほしい人～さいしょはグー』は、日本人の日常の動作の美しさを、さまざまな角度から示すものだった。ここには戦前からの日本のモダンダンスが培ってきた遺産がきちんと受け継がれている。

山野博大 週刊 オン ステージ新聞 2011年3月18日

全9作品で「遊び」がテーマ。「人形 アノコノシアワセインッテル」(作舞・菊本千永、音楽・宮田耕八朗)は、置き去りにされた雛人形の嘆き。置き去りにした人の愛惜と厚顔が混在し、人間感情の機微が生きている。「はないちもんめなんて大きらい」(寺井美津子 音楽・西村朝ら)は群れるのも引き籠もるのも息がつまる、思春期の苦い思いが生々しい。「遊びをせんとや生まれけむ」(かじのり子 音楽・ビゼー)は、遊ぶことも知らずに死んだ子らへの思い。踊りも厳しい。ラストの「今日のこの空ほしい人 さいしょはグー」(藤田佳代 音楽・吉田兄弟ら)は全員参加。邦楽器と単色の衣裳による群舞の4楽章構成で、青空を象徴的にうたいあげる。遊びには晴れやかこそ望ましいのだろう。

白石裕史 ClassicNote 2011年4月1日

きょう生きて あしたも生きて あさっても 東北のおともだちに DVD撮り

2011年6月12日 神戸文化ホールリハーサル室

春 兆す ほらね 昨日からの脱出 わき上がる雲 花が咲く 風 花が浮かぶ 竹は天をめざす 旅立つ翼 芽生え
冬 冴ゆる シロツメクサの頃 ササユリの頃

作舞・出演

藤田佳代 寺井美津子 金沢景子 菊本千永 かじのり子 向井華奈子 重友理帆 平岡愛理
出演 坂本のより 中江優来 大井遥 松山優海 村上朝香 村田瞳子 福本莉菜 三木日和 岡村春花 池尻藍子
岡田菜々子 横田梨乃 二木ひなた 石原妃菜 宮本芽泉 松田佳央理
三木涼音 末吉花林 林佑季奈 松岡椿 天満彩乃 原田光琉 菊原麻理奈 渡辺菜子 大平果穂 相原桃乃
藤井花名 林依里奈 雲井瑞帆 松山美海 細田和海人 五十嵐萌奈 中野優一 原菜月
松浦有紀 稲益夢子 相原凧沙 岡田彩花 穂井田凜 菊原麻衣花 上田理央 雲井綾音 渡辺草平 稲益敦子 高橋萌
大待直子 大西直子 山田麻以 数越慶子 藤田晶子 藤原くるみ 本田詠理奈 岩佐展子 萩原陽子 梁河西 松浦早希

発表会の台本を書いていた日本では大地震 大津波と大災害が起りました。それに加えて原発の事故で日本は地獄の底まで落ちました。このような時にわたしたちには何が出来るか 考えに考えて 思案に暮れて やっとわたしたちには踊りしかないところへ行ってきました。踊りのお手紙を創ろうと発表会の踊りとは別に4月なかばから2ヶ月かけて振り付けをし 練習をして6月12日にビデオ撮りました。「きょう 生きて あしたも いきて あさっても」という題で14の踊りです。

なんだかおしつけているようで気がひけますがビデオレーターとして気仙沼 児童養護施設旭が丘学園におくります。

おひさまには10月22日に神戸文化ホールからお送ります。12のダンスの内一つは「私たちのダンス」から「ササユリのダンス」に差し替えました。これは3月11日の災害で亡くなった人への鎮魂の踊りです。

いまわたしたちは発表会の第2曲めの作品「山のカレンダー」(台本 菊本千永)にとりかかりました。どうぞこれ以上にごともありませんようにと祈るばかりです。

藤田佳代

地震・津波の当日も レッソンはあった。

日本中がパニックにおちいっている中、「普段通り、踊っていてよいのだろうか?」と思った。

今回のビデオレーターも「本当に被災されている方のお役にたてるのだろうか?」との迷いがあった。

でも、今は違う。

結果より もっと大事なことは、「今 自分にできる事を行動にうつす事」ではないかと思うようになった。

私たちは きっと 何が出来る。

藤田佳代舞踊研究所に通う子供も生徒も先生も保護者も、皆、心から 被災された方々を心配し、ご冥福を祈り、復興を強く願っている。

それを形にあらわす機会をくださった先生方、ありがとうございます。

つたない撮影で申し訳ありませんが、ビデオに映っている真剣な想いが、少しでもお役にたてますように。

子供たち・先生方の笑顔と元気が、被災地の方々に届きますように。

そして、いつまでも 藤田佳代舞踊研究所の笑顔が 続きますように。

藤井陽子(藤井花名 保護者)

編集後記

チェルノブイリという地名を知ったのは原発事故以降のことでしたので、その地名の持つイメージは荒れ果てた生命が存在できない荒野、というものでした。あるとき「春の暖かい雨で顔を洗いたい」という少女の言葉を知りました。彼女は被爆し白血病にかかっていた。衝撃でした。雨で顔を洗うほど、自然と少女は寄り添って生きていたのだと、そしてチェルノブイリという場所は、そういうことができるような豊かな場所だったのだと…。彼女は自分の人生を奪われました。自分の健康や未来だけでなく、寄り添っていた自然までも。

今回やまばを主人公にした台本にしようと思いついていろいろ本をよんでみたのですが、本の中にも昔の人たちがどれほど自然を注意深く観察し、寄り添い、尊んできたのかよくわかる、豊かな世界があふれていました。今はどうしても東日本大震災と重ね合わせてしまいます。

大地や海や山に記憶はあるでしょうか。福島、宮城、岩手の豊かな世界がどうか過去のものになりませんように。 編集責任 菊本千永